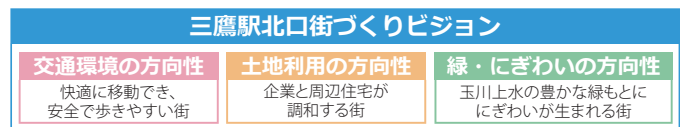


街づくりラボって？

平成29年5月に策定した「三鷹駅北口街づくりビジョン」では、三鷹駅北口地区の概ね10年後の目標像を描き、3つの視点から街づくりの方向性と考え方、その実現に向けた取り組みを示しています。



住む人、働く人が集い、心地よく過ごす街

三鷹駅北口では、企業が多く立地するなか、商店会や企業、地域の方々などによるイベントが公開空地などで開催されており、今後、街に関わる人たちの連携による街づくりが展開される可能性があります。

また近年、街中のパブリックスペースを活用した人の居場所を創り出す取り組みが全国で行われています。

そういった現状を踏まえ、既存の公開空地や道路空間などのパブリックスペースの活用について、講話や視察、ワークショップなどを通して、地域の商業者・住民・企業の方々とともに学んでいくために「三鷹駅北口街づくりラボ」を立ち上げました。

地域に住まい、働く方々の実感やご意見とあわせて、三鷹駅北口らしいパブリックスペースの使い方について、取りまとめていきます。



歩行者を中心とするにぎわいのエリアのイメージ

第1回 実施概要

日時:2018年9月6日(木)
18:30～20:30

場所:西久保コミュニティセンター1階
大会議室

内容:

- ・三鷹駅北口街づくりラボについて
- ・山下裕子さんの講演
- ・意見交換・質疑応答
- ・次回のご案内等

広場ニスト・山下裕子さんの講演

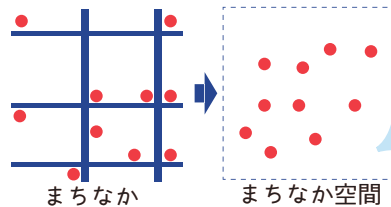
富山をはじめとする全国のまちなか広場づくりに関わっており、人・ネットワーククリエイター兼広場ニストである山下裕子さんにお越しいたき、「人が集う“まちなか空間”のつくり方、つかい方」をテーマにご講演いただきました。

はじめに

人の居場所をつくる事業が全国で増えてきています。人口20～40万人の中核都市で、道端で知人にばったり会うことは価値のあることです。まちなか空間ではそれが起こりえます。

1. まちなか空間とはなにか

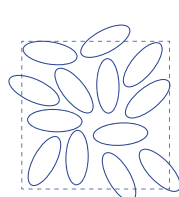
まちなか空間とは、都市の自由空間であり、何かに遮られず、お互いを認識できるような空間のことです。



何かに遮られず
お互いを
認識できる空間

まちなか空間を地域の柱に

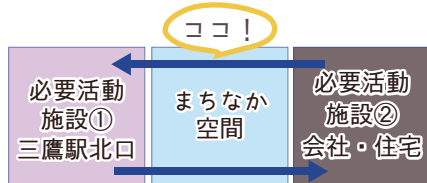
まちなか空間は人の動線上に整備し、多様なヒト・コトを集め、地域の核となるようにします。



まちなか空間を中心に地域の人々が集まり顔見知りになる！

まちなか空間にすべき場所

空間そのものに集客力はありません。必要活動を行き来する際に、通りかかる場所をまちなか空間に設定します。



まちなか空間の効果

～知り合いとばったり会えるようなサイズ感の都市の場合～

知り合いが増えることで
できることが増える

人とのつながりを作れる

2. まちなか空間の立地

空間 = できあがるもの
まちなか空間 = つくるもの

敷地設定前に考えるべきこと

通行量のあるところ（通路）
をまちなか空間にする。

敷地設定後に考えるべきこと

通行者の属性を知る
往来時間を豊かにする

休日の自分が
望むものを考える！

3. まちなか空間の運営

その場所を使っている人が居て初めて意識される！

三鷹駅北口は、場所はあるが、使っている人があまりいない。

にぎわい = 通行人は多いが… × 滞在人数 × 滞在時間

ネットワーク型サードプレイス

カフェなどの場所ではなく、人とのつながりにおけるサードプレイスをつくることが重要！

活用にあたって

地域に元々あるものを活かす

予算もかからず、
いろんなことができる！

使う人にとって
「自分が使えるか」が
ポイント！

× 課題の解決
○ 楽しいから始める！

フィールド = 環境 × 仕組み + 使いたくなる仕掛け

空間を使ってもらうことで、「自分の居場所」に！



4. いまなぜ？まちなか空間

「何かを起こせる場所」は中心市街地に少ない

色んなことを起こせる場所へのニーズの高まり

右の写真（グランドプラザの例）のように、広場を媒介にしてつながる人が増え、話さなくてもお互いを認識できる。そういった広場が増えることが今後重要である。

三鷹駅の現状

- ・人口よりも乗降者数の方が多い
- ・人口並みの昼間人口
- ・駅周辺に集中している居住地域

三鷹駅北口には
ポテンシャルがある！



山下 裕子（やました ゆうこ）

全国まちなか広場研究会理事。NPO法人GP ネットワーク理事。富山に移住し、演劇やアート関連イベントの企画制作に関わる。2007年より富山市まちなか賑わい広場グランドプラザ運営事務所勤務。2009年（財）地域活性化センター第21期全国地域リーダー養成塾修了。2010年より（株）まちづくりとやまグランドプラザ担当。2011年よりNPO 法人 GPネットワーク理事。2014年よりまちなか広場研究所として独立。その後、全国のまちなか広場づくりに関わる。
著書：「にぎわいの場 富山グランドプラザ―稼働率100%の公共空間のつくり方」（学芸出版社）

グランドプラザの紹介

富山のまちなか賑わい広場である「グランドプラザ」は、現在では、地元住民だけでなく観光客でもにぎわっています。まちなか空間の活用にあたり、「誰が」「何を」望んでいるのかを考えるためのヒントとなる、たくさんの取組を紹介していただきました。



グランドプラザの広場の活用の様子

地域を大切に思う人を育てるために、小さい頃に地域の記憶と愛着を生むのが大事。イベント「グランドプラザであそぼ」の実施（チョークで床にお絵かき等）。

高齢者施設の人たちに来てもらう。開かれた広い空間にすることで、普段できなかったような会話が生まれる。

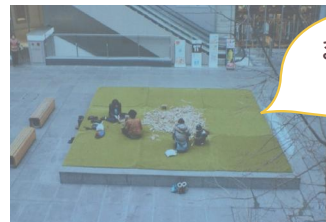
高齢者

基本的に提案は断らず、「この場所があったから自分のやりたいことができた」という若者を増やす！大学の学祭PRやダンスイベント等の実施。

マルシェの実施。次第に石垣島など遠方からもイベント開催者が来るように。「好き」を共有する人の仲間作りが大事。

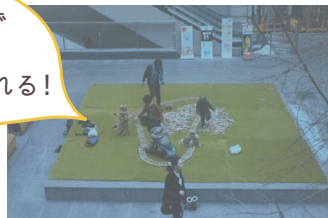
その他

広場に積み木を置いておくとか…



まずは個人で
遊び始める

段々みんなで
遊び始め、
つながりが生まれる！



グループごとの意見交換

山下さんの講演後、参加者の方々が班ごとに分かれ、講演の感想と質問したいことについて、意見交換を行いました。各班の主な意見をご紹介します。

A班

- ・まちなか空間という考え方が楽しく聞こえる講演だった。
- ・公共交通利用は、出会いを生むというのと言われてみれば当然のことだが、そういう考えを持った事がなかったのが、印象的な言葉だった。
- ・街の仕様ではなく仕掛けが肝だと感じた。
- ・つい土日の利用を考えがちだが、平日の日中がターゲットになることにハッとした。
- ・ターゲットはどの程度絞るべきなのか。

B班

- ・富山グランドプラザの子どもたちが遊んでいる写真を見て、とてもワクワクした。身近にこのような空間があって友人や恋人と過ごせたらいいと思う。
- ・街全体(市、企業、学校、地域)でゆるやかなコラボ企画を立ち上げたい。
- ・居場所があると穏やかな気持ちになれるのではないかな。
- ・グランドプラザでは、高齢者や子どもだけでなく、就業者に対しても何か取組をしているのか。

C班

- ・どんな人がどんな空間を望んでいるか、空間の役割とは何かを深く考えるよりも、ふらっと立ち寄れる空間が習慣となり、本来の人と人との触れ合う価値を自然に生み出すことができれば、地域に根付いていけるのではないかと感じた。
- ・まちなか空間を日中過ごす人たち(特に子ども)に開放していくのはとても素敵で、子どももまちづくりの一員であることを可視化してくれる。
- ・対象者のニーズが明確にわからない場合、どのようなコトづくりをしていけばいいのか。

D班

- ・道路・通路の既成概念が変わった。特に「ミルミラレル」の関係性がある空間の可能性を感じた。
- ・内容について共感できた。実際にやるにあたって多くを巻き込んで実施するのは難しいと感じた。
- ・これまで人の往来に気を配ることなく通っていたが、「どんなひとがいて、何をしているか」を考えつつ通ってみたい。そこには様々なニーズがあり、それに答える策を考えてみたいと思った。
- ・ネットワークやコミュニティづくりにおける会員化の是非について聞きたい。

E班

- ・人の滞在時間から「にぎわい」を作っていくという視点は新鮮だった。一方で、小人、幼児と高齢者が「にぎわい」に結びつくイメージは湧きにくかった。
- ・他の街の事例もあり、分かりやすかったのも、もう少し色々な事例も紹介してもらえるとイメージが付きやすかった。
- ・三鷹駅北口の環境は仕事だけの空間であるため、プライベートの空間になれば良い。
- ・まちなか空間をつくる際に、民間企業主導で成功した事例や、成功する可能性はあるのか。

F班

- ・目的もなく何となく集まれる場所という観点や見方が新鮮だった。
- ・制約をつくらず、「それ、いいね」で進めていくのは良いと思う。
- ・普段歩いていても、まわりに気を遣っていないので、そこに空間があるという存在に気付かないことが多い。
- ・地方都市と東京のまち(空間)づくりの違いは何か。

質疑応答

意見交換の中で、ぜひ山下さんに聞いてみたい!となった質問を、各班の代表者から山下さんにお聞きしました。

A班

働く人々へのアプローチは? イベントを回すための秘訣は?

定期的にイベントを開催すること。「皆と一緒に」ということが大事。専属スタッフがいること。イベントをやりたい人を多くつくる。年1回やるチームを多くして、イベント疲れにならないようにする。

D班

飛び地などまとまっていない場所の空間づくりは?

イベントをすることだけがニーズじゃない。椅子・テーブルを置いてオープンカフェにするだけでもニーズはある。ふれあい・ネットワークづくりに貢献する。

B班

大学とのコラボの具体例は?

場所代不要のマッチング事業として、学生の提案で、バレンタインデーに美容学校の女学生がチョコレートのオイルで「愛のハンドマッサージ」を行った。また、就活イベントとして、地域の企業の説明会を行った。

E班

富山のグランドプラザの失敗事例は?

失敗と捉えないことが重要で、少しずつやること。例として、広場で秋刀魚を焼きたいという申し出があった。開かれた場所=貸し切れない場所なので、少しずつ試して周りの様子を見ながら出来ることを増やしていった。

C班

お金の運営方法は?

まちの活性化が行政の収入の向上につながるので、人件費は行政が持つのが良い。公共事業として「広場」を整備・管理運営すれば、賑わいづくりを行政が継続的に支援できる。

F班

人がいないところに人を集めるために意識したことは?

「人が通りかかる場所」を探してまちなか空間を重ねていくことが大事。人がいない広場では、運営スタッフがまず座った。また、あらゆることを広場で行った。

WEBアンケート

「三鷹駅北口エリアでの過ごし方について」

三鷹駅北口や近隣にお住まいの方、お勤めの方の三鷹駅北口エリアの印象や関わり方、過ごし方を把握するため、WEBアンケートを実施します。アンケート結果は今後の「三鷹駅北口街づくりラボ」で活用します。

回答方法(パソコン又はスマートフォン)

下記のアドレスにアクセスしてください。

<https://goo.gl/forms/0SgqisjyU3z3kUEs2>

右のQRコードを読み取ることもアクセス可能です。

回答期限

平成30年10月31日(水)



第2回三鷹ラボの予定

ラボメンバーの皆様へ

次回の三鷹ラボでは、大田区蒲田で実際に道路を使って行われているイベントを見学します。見学では自由に見て回っていただきますので、参加者同士で屋台での飲食を楽しみながら、道路を利用したにぎわいづくりの雰囲気を感じてみてください。

また、蒲田駅周辺でエリアマネジメントを行う「蒲田東口おいしい道計画」の活動について、イベント主催者・スタッフの方にお話を伺います。

第3回以降の予定

第3回	平成30年11月	地元の取り組み紹介
第4回	平成30年12月	活用アイデアの共有
第5回	平成31年 3月	今後の展望について

場所

大田区蒲田
さかさ川通り

内容

- ・イベント見学(屋台での飲食)
- ・主催者へのヒアリング
- ・意見交換

出席者

- ・武蔵野市中央地区商店連合会
- ・中央通り西祥会
- ・三鷹駅北口商店会
- ・西久保城山会
- ・NTTクラリティ(株)
- ・NTT情報ネットワーク総合研究所
- ・多摩信用金庫

- ・東京電力パワーグリッド(株)
- ・東日本旅客鉄道(株)八王子支社
- ・(株)アトレ
- ・(株)モンテローザ
- ・(株)すかいらく
- ・日本たばこ産業(株)
- ・(株)タツノコプロ
- ・(株)プロダクション・アイジー

- ・サイフォン合同会社
- ・むさしのマルシェ実行委員会
- ・まちの保育園
- ・公益社団法人武蔵野法人会
- ・武蔵野タワーズ団地管理組合《事務局》
- ・武蔵野市役所
- ・八千代エンジニアリング(株)

問合せ先

武蔵野市 都市整備部 まちづくり推進課

所在地: 〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28 4階東棟

T E L : 0422-60-1872

M A I L : SEC-MACHIDUKURI@city.musashino.lg.jp 平成30年10月 発行